

団体名	次世代防災研究者連盟
活動テーマ	次世代防災研究者連盟



来る巨大災害に備える防災・減災の方策を構想するためには、若い人材の育成が不可欠である。次世代防災研究者連盟では、狭義の研究者のみならず、防災に携わる若手の実務者・研究者・学生などを“防災研究者”と広く定義し、彼らが防災についての知識や思考を深めることを活動の目的としている。平成 28 年度には、大きく 2 つの活動を展開した。第一に、2016 年 8 月 7 日（日曜）～8 月 8 日（月曜）に『次世代防災研究者連盟・サマースクール 2016』～次世代の稲むらの火を構想する！～と題したサマースクールを開催した。和歌山県広川町・稲むらの火の館などで実施し、稲むらの火の館の館内見学や広川町の防災計画の課題についてのヒアリングやフィールドワークを通して、広川町の新しい防災実践について参加者で議論を交わした。第二に、2017 年 3 月 12 日（日曜）～3 月 13 日（月曜）に『次世代防災研究者連盟・第 3 回学術発表大会』と題した合宿を開始した。兵庫県神戸市・しあわせの村で実施し、各大学から研究発表を様々な専門分野から行い、その発表内容を参考にしながらグループワークを展開した。本活動によって若手の“防災研究者”のネットワークの構築という成果を得られた。さらに、本活動が企画する学術発表会やサマースクールの中では、グループワークの時間を十分に確保し、グループワークを通じた新たな防災・減災研究の創出をすることもできた。来年度も和歌山県広川町などの具体的なフィールドに根ざして、引き続き本活動を行っていく予定である。